



奄美・琉球諸島は、大陸との分離・結合を繰り返し、島々が形成される過程で、各島々で独自に生物が進化を遂げたため、ヤンバルクイナやアマミノクロウサギなど、奄美・琉球諸島には、世界でここにしかない動植物が数多く分布しています。

このすばらしい世界の宝を将来に引き継いでいくために、世界自然遺産に関するIUCN 専門家や国内の有識者を招き、奄美・琉球諸島の世界自然遺産登録に向けた方向性や課題について議論し、今後、行政・大学・NPO などの関係者が連携して取り組んでいくためにシンポジウムを開催します。

世界自然遺産シンポジウム in 那覇

# 奄美・琉球諸島 世界自然遺産への道

2012. 11. 4 (日) 14:00~17:00

沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室

参加無料 事前申し込み不要 \*直接会場へお越しください



主催：環境省・沖縄県 後援：琉球大学（未定）

問い合わせ先 電話：03-5824-0967 一般財団法人 自然環境研究センター 担当：宮川



レスリー・F・モロイ *Leslie F. Molloy*

ニュージーランド在住。国際自然保護連合 (IUCN) 世界保護地域委員会 (WCPA) 会員。IUCN 世界自然遺産技術的助言グループ会員。博士(土壌学) ニュージーランド自然保護省広報普及局長等を歴任。現役時代から IUCN 委員として自然遺産の申請物件の事前調査や、登録物件の保全状況調査等に従事。1993年に、日本初の自然遺産、白神山および屋久島に対する評価チームメンバーとして来日。また、知床や小笠原諸島を視察し、世界自然遺産としての価値や今後の課題等について環境省へ助言を与えている。2008年には奄美・琉球諸島を現地視察している。

土屋 誠 *Makoto Tsutiya*

琉球大学理学部教授

1976年東北大学大学院理学研究科博士課程修了(理学博士)。琉球大学助教授等を経て91年より現職。現在、日本サンゴ礁学会会長、太平洋学術協会事務局長、中央環境審議会臨時委員、石西礁湖自然再生協議会会長などを務める。専門は生態系機能学。サンゴ礁島嶼生態系の機能と保全に関する研究を進めている。著書に「美ら島の自然史」、「サンゴ礁のちむやみ：生態系サービスは維持されるか」、「ジュゴン：海草帯からのメッセージ」、「Anguish of Coral Reefs」ほか多数。

岡野 隆宏 *Takahiro Okano*

鹿児島大学教育センター特任准教授

鹿児島環境研究会

1997年に環境庁(現環境省)に入庁後、阿蘇くじゅう国立公園、西表国立公園での勤務を経験するとともに、自然公園法の改正、小笠原諸島の世界自然遺産の推薦等を担当。2008年のレスリー・F・モロイ氏の奄美・琉球諸島の現地視察にも随行。2011年より現職。「鹿児島環境学プロジェクト」メンバーとして、自然環境の保全と活用による地域づくりをテーマに研究。

奄美・琉球諸島は、地殻変動や海水面の変動によって、大陸と陸続きの時代や、大陸から分離して島嶼化した時代が繰り返されました。そのため各島々で独自の生物の進化が見られ、ヤンバルクイナやアマミノクロウサギ等、世界でこの地域だけにしかない生物が数多く分布しています。

奄美・琉球諸島は、2003年の「世界自然遺産候補地に関する検討会」で、世界自然遺産への推薦候補地に選定されています。今回、屋久島などわが国の世界遺産登録に多大な貢献をした国際的な専門家であるレスリー・F・モロイ氏や、沖縄の自然環境研究の第一人者の土屋誠氏、世界自然遺産の専門家の岡野隆宏氏を招き、奄美・琉球諸島の世界遺産登録への課題、地域・行政・大学・NPOなどによる世界遺産登録や地域づくりに向けた取組みについて議論を深めます。

## プログラム

14:00

●主催者挨拶  
環境省  
沖縄県

14:10~15:50

●基調講演

「奄美・琉球諸島の自然について」  
土屋誠(琉球大学理学部教授)

「世界自然遺産について」

岡野隆宏(鹿児島大学特任准教授、鹿児島環境学研究会)

「奄美・琉球諸島の世界自然遺産  
登録への可能性等について」

レスリー・F・モロイ

(国際自然保護連合(IUCN)世界保護地域委員会(WCPA)会員)

16:00~17:00

●パネルディスカッション

「奄美・琉球諸島 世界自然遺産への道」

パネリスト

レスリー・F・モロイ(IUCN世界保護地域委員会会員)

横田昌嗣(琉球大学理学部教授)

岡野隆宏(鹿児島大学特任准教授、鹿児島環境学研究会)

環境省

沖縄県

NPO

コーディネーター

土屋誠(琉球大学理学部教授)

世界自然遺産シンポジウム in 那覇

# 奄美・琉球諸島 世界自然遺産への道

